

ハイチ地震

右足切断のガエルさん招き

AMDAが義足支援報告

昨年1月の大地震で被災したハイチで緊急医療支援、義足支援などに取り組んでいる国際医療救援団体「AMDA」は15日、義足を提供したハイチ人学生、ガエル・エズナールさん(18)を招き、記者会見を開いた。16日には神戸市で震災障害者や家族らが集う「よろず相談室」で交流する予定だ。

ガエルさんはハイチの首都ポルトープラン

に在住。家族で住んでいたアパートで、1人で知人の赤ん坊の面倒をみていた時に地震が襲い、がれきの下敷きになった。兄らが救い出したが、赤ん坊はひざの上で亡くなった。

AMDAでは義足支援の他、ハイチ大地震発生直後から緊急医療支援に取り組む、流行が拡大しているコレラでも支援にあたった。ハイチ支部の設立を進めており、今後も継続してハイチの支援にあたる予定。岡山大に留学経験があり、義足支援を現地でサポートした歯科医、マック・ケビン・フレデリック氏も会見に同席し、「食

に取り組んでいたAMDA職員で義肢装具士の八尾直毅さんと出会い、義足を作ってもらうことになった。ガエルさんは「神戸で(阪神大震災の)被災者に障害を負ったあとの生活を聞き、自分の人生の参考にしたい」と話した。

料、仕事、教育がまだまだ足りない。支援が必要だ」と訴えた。

【石戸諭】



記者会見したガエルさん(左から2人目)、菅波茂代表(同3人目)、フレデリック氏(右端)＝北区で